

## 日本倫理・哲学グランプリ 2017

### 【課題】

次の4つの課題文のうちから1つを選択し、後の「哲学エッセイを書くにあたって」を参考にしつつ、エッセイを書きなさい。

- ① すべての死すべき者にとっては、生誕もなければ、呪うべき死の終末もない。ただ混合と混合したものの分離があるだけである。生誕も死も、人間のあいだでつけられた名前にすぎない。

エムペドクレス

- ② A がなぜ A であって、A 以外ではないかということ、十分に満たすに足る理由がなければ、どんな事実も真ではなく、存在もできない。[…] もっともこのような理由は、十中八九、われわれには知ることができないのであるが。

ライプニッツ

- ③ 溺れている子どもをためらわずに助け、しかも自分がかなりの犠牲を払うことになってもそうするだろうということについては、私たちのほとんどが絶対確実だと考えている。ところが、毎日何千人もの子どもが死んでいるにもかかわらず、私たちは当たり前のように買うけれども、なくてもほとんど気付かないようなものにお金を使っている。これは間違っていないか。もし間違っているのだとすれば、私たちは貧しい人々に対してどのくらいの義務を負っているのだろうか？

ピーター・シンガー

- ④ いやだ と言わせてください  
いやがってるのはちっぽけな私じゃない  
幸せになろうとあがいている  
宇宙につながる大きな私のいのちです

谷川俊太郎

## 哲学エッセイを書くにあたって

哲学エッセイは、学校でよく課題に出るいわゆる「生活作文」（生活の中で体験したことについて自分が感じたこと、考えたことを書くもの）ではありません。そうではなく、ある問題やテーマに関して自分なりに問いを立て、様々な角度から考察し、筋道立てて書くものです。評価のさいには以下のような点が重視されます。

- ・ 選んだ課題文に含まれるテーマや問題とどれくらい向き合っているか。
- ・ そのテーマや問題についてどれくらい深く考え、理解しているか。
- ・ 自ら問いを設定し、それに答えるべく論じ、結論を出しているか。
- ・ 主張や意見を述べるさい、なぜそう言えるのか、明確な理由を挙げているか。
- ・ 具体的で分かりやすく、説得力のある首尾一貫した論述になっているか。
- ・ 反対の立場も検討しつつ、自分の立場をはっきりさせて論じているか。
- ・ 自分なりの論点や考えを含んだ個性的なエッセイになっているか。

こんなことを言われても、実際にはどうすればいいのか分からないかもしれませんし、これらのポイントをすべて満たすなんて無理でしょう。でも、書きながら迷い、悩んでください。それでもチャレンジするのが大事です。

\* 「倫理哲学グランプリ」の HP の「実績」をクリックすると、過去のメダリストのエッセイが読めます（青字で下線が引いてある人）。書く際に参考にしてください（<https://jpe-gp.org/result/>）。